

私のふるさと、福島県
 広野町は人口約五千人の
 小さな町です。私の記憶
 では大きな災害はありま
 せんでした。この町が東
 日本大震災の地震、津
 波、原発事故に遭遇して
 緊急時避難準備区域とな
 り、町民は避難し、役場
 機能も町外に移転するこ
 とになりました。

私は二〇一〇年三月ま
 で福島県の保健師として
 各地を回っていました
 が、県を退職して同年五
 月から広野町の臨時職員
 で働くようになりまし
 た。震災後は一次避難、
 二次避難の支援をしてい
 ましたが、一年七月に
 町職員を辞め、十一月に
 町議となりました。

東北復興日記



134



広野町議会議員
 門馬まりえさん

高齢者に寄り添い、支え合い

この年の九月末に緊急
 時避難準備区域は解除さ
 れ、私も十月には自宅に
 イヌやネコたちと戻り、
 庭木の剪定や室内の清掃
 を行い、看護師の友人と
 二人で町内の高齢者の訪

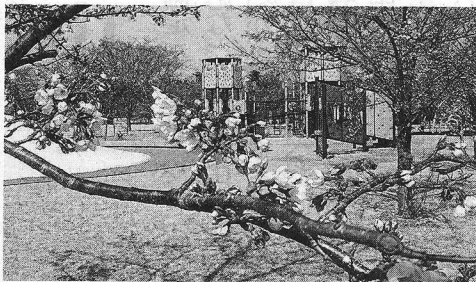
問活動を始めました。
 少しでも町に戻ってい
 る人に寄り添い、不安の
 軽減と孤立死を防ぎたい
 という思いでした。町を
 ゆっくりと巡回し、畑仕
 事をしている人に声を掛

け、洗濯物を干
 している家、煙
 突から煙が出て
 いる家などを訪
 ねて歩きました。

ある時、避難

せずに残っていた八
 十八歳の女性に出会い、
 訪問を始めることにしま
 した。妄想的な言動があ
 るものの、畑に出て草取
 りを黙々と手で作業され
 ていました。女性は「こ
 の家で死にたい」と強く
 願っていました。サポー
 トするため、体調管理と
 買い物支援を開始。町の
 包括支援センターの介護
 福祉士と連携しながら、
 帰町した近所の皆さんと
 も協力して、約三年間支
 え続けて、ご本人の希望
 通りの日を迎えることが
 できました。

孤立死を防ぐことがで



震災後、閉鎖された広野町
 内の公園。再開の
 ため、三月三日ま

この連載は、東京の
 NPO法人JKSK
 と、被災地の女性たち
 が協力して復興に取り
 組む「結結プロジェクト」の協力を得て、掲
 載しています。

きたことで、この災害の
 あった地域でも往診をし
 てくれる医師や、「隣保
 共助」の心を持つ住民の
 支え合いがあれば、わが
 ふるさと広野町は、必ず
 や自分たちで立ち上がる
 日が来ることもあると信
 じています。

町に戻った住民は約二
 千人ですが、この春も戻
 る住民を待ちながら一日
 一日、高齢者に寄り添い
 続けて暮らしたいと思っ
 ます。